

父親の育児介入の現状

森田 英雄¹⁾，倉繁 隆信¹⁾，奥原 義保¹⁾
北添 康弘²⁾

- 1) 高知医科大学小児科
- 2) 高知医科大学情報センター

要約：父親が育児援助を行うには、父親にとってどのような背景が必要であるのか、父親を対象にしてアンケート調査し、検討した。

父親が日々を楽しく過ごしている場合に育児援助が多く、自主的に行っており、父親の社会的、個人的生活の環境づくりが必要と思われた。

見出し語：父子関係 父親の育児介入 育児援助

(研究方法)

1993年度高知県赤ちゃん審査会に参加した、生後3ヶ月から1歳6ヶ月までの乳幼児の父親を対象にしてアンケート調査を行った。参加した乳幼児1735名中父親同伴は1100名であった。

父親の年齢は25歳から35歳までが約70%であり、その職業ではサラリーマンが多く、67%を占めていた。

統計処理はPearson Chisquareで行った。

(結果)

1. 父親の休日の過ごし方(表1)

仕事や趣味などのために家族と離れて休日を過ごす父親は23%で、母親の援助や子供、家族とかかわって過ごす父親が52%であった。

2. 父親の育児援助の頻度と理由(表2)

育児援助を頻回に行っている父親は432名、35%であり、援助しない父親は107名、7%であった。

しばしば育児に介入する父親の動機としては、

妻にいわれて行う場合が17%で、育児援助をすべきと思いうる場合が56%であった。育児援助をしない父親の理由としては、仕事や趣味などで多忙の場合が69%であった。

育児介入の頻度の多い父親は自主的に育児援助をする場合が多かった。

3. 父親が援助すること(表3)

複数回答例が多く、育児に介入する父親は育児に関する種々の事を援助していた。

4. 父親の幼児期体験と育児援助(図1)

父親の幼児期体験は父親の育児援助の頻度に影響を及ぼしていなかった。

5. 父親の育児援助と現在の父親の状況(図2)

育児援助の多い父親は楽しく日々を過ごしている場合が多く、育児援助の少ない父親は過労の場合が多かった。

(考察)

母親が育児を楽しもうには、父親が母親の相談相手になり、育児についての語り合いが大切なことを明らかにした¹⁾。

そこで、父親が育児援助を行うには、父親にとってどのような背景が必要であるのか、父親を対象としてアンケート調査を行った。育児介入を頻回に行っている父親は、自主的に母親を援助しており、父親の幼児期体験の影響はなく、父親の現在の状況が主な要因となることが判明した。

すなわち父親が日々を楽しんでいる場合に、自主的に育児に介入することが多く、過労の状態では育児援助が少なかった。

以上のことから、父親の育児援助を多くするには、父親が社会的、個人的生活を楽しく、ある程度の余裕をもって過ごせる環境づくりが必要と思われた。

(参考文献)

- 1) 森田英雄, 浜田文彦, 倉繁隆信, 奥原義保, 北添康弘: 母親が育児を楽しむための父親の役割, その他の因子の検討. 厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」平成3年度報告書. 1992.

表1. 父親の休日の過ごし方

仕事	4%	} 23%
趣味	19%	
自宅で休息	25%	
家事の援助	5%	} 52%
家族と外出	26%	
子供の相手	21%	

表2. 父親の育児援助の頻度と理由

しばしば	35% (432名)	その理由 →	妻にいわれるから	17%
			父親も育児援助すべきと思う	56%
時々	58%	その理由 →	子供の教育が大切	10%
			子供が心配	17%
ほとんど手伝わない	7% (107名)	その理由 →	仕事が忙しい	37%
			趣味などで多忙	32%
			育児は母親がする方がよい	21%
			疲労するから	9%

表3. 父親が援助する事

子供の相手	26%
オムツ交換	18%
ミルクや食事を与える	15%
入浴	26%
家事や買物	15%

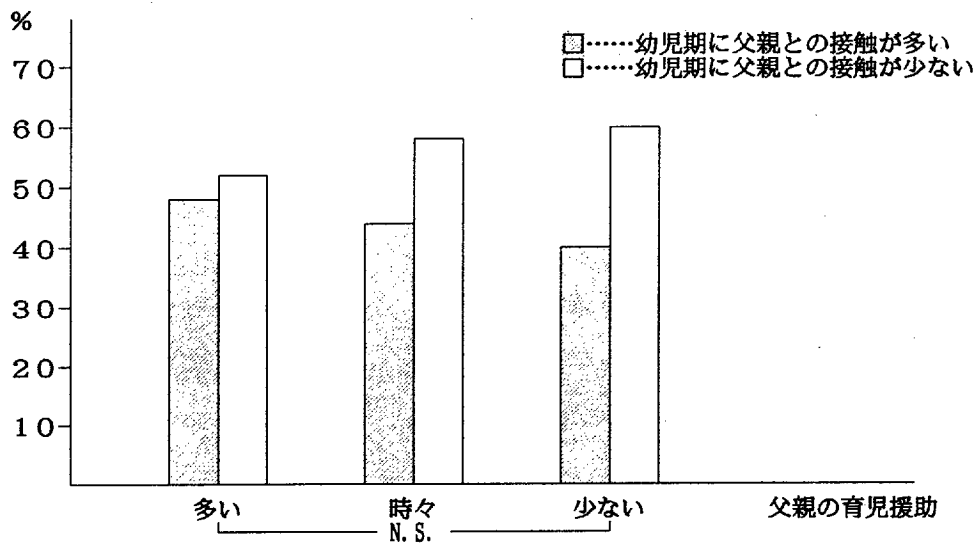


図1. 父親の育児援助と幼児期体験

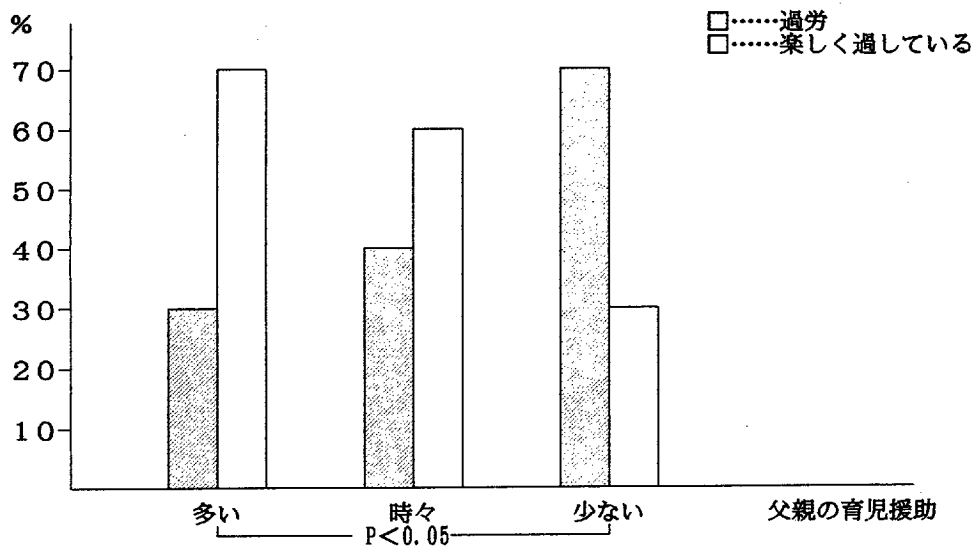


図2. 父親の育児援助と父親の状況



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:父親が育児援助を行うには,父親にとってどのような背景が必要であるのか,父親を対象にしてアンケート調査し,検討した。

父親が日々を楽しく過ごしている場合に育児援助が多く,自主的に行っており,父親の社会的,個人的生活の環境づくりが必要と思われた。